

1 関節可動域表示並びに測定

日本整形外科学会身体障害者委員会
日本リハビリテーションセンター医学会評価基準委員会

1 基本的事項

1 経緯

(略)

2 ROM測定の目的

- 1) 測定することによって関節の動きを阻害している因子を発見する。
- 2) 障害の程度を判定する。
- 3) 治療法への示唆をあたえる。
- 4) 治療、訓練の評価手段となる。

3 ROMの種類

- 1) 自動active: ケースが自分の力で動かさうする関節可動域。
- 2) 他動passive: 外的な力で動かされる関節可動域()で表示。
- 3) 関節には他動のほかにも遊びreserveがあるが、これは原則としてとりあげない。

4 基本肢位

すべての関節について解剖学的肢位を 0° とする。なお前腕については手掌面が矢状面にある状態を 0° とし、肩関節の水平屈曲伸展計測の際は外転 90° 位を 0° とする。

5 角度計のあてかた、基本軸・移動軸

軸は臨的に考慮したので、理論的でない部分もある。基本軸は原則として立位で設定した。

注)(*表示について)

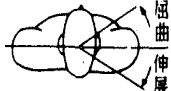
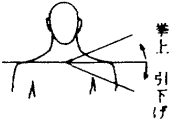
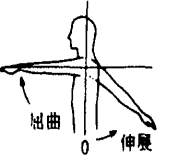
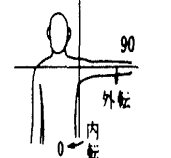
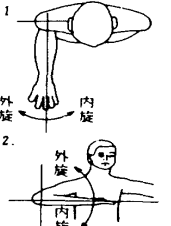
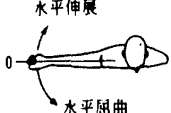
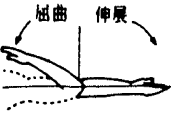
- 1 過伸展Hyperextensionという言葉は、一般に膝、肘、指に使用されているが基本肢位を 0° としたので必ずしも必要がない。しかし肘と指は正常でもいわゆる過伸展をとりうるので、習慣上過伸展という言葉を使うことが多い。
- 2 可動域表示をマイナスで表現することもできる。
股関節伸展について例示すれば、関節可動域が屈曲位 20° から 70° までであったとすると、この表現は次のとおりとなる。
 - a) 股関節の運動範囲は $20^{\circ} \sim 70^{\circ}$
 - b) 股関節の屈曲は 70° まで、伸展は屈曲 20° (-20°) まで。
- 3 正常可動範囲はあくまで参考角度とする。
- 4 股関節にはこの他分廻し運動、あるいは屈曲位外内転(Abduction or Adduction in Flexion)という表現をすることがある。circumductionという言葉があるが、ほとんど同義語という解釈もなりたつが、回旋要素の有無によって異なる意味もあるのでここではふれないことにする。
- 5 肩甲帯の運動は複合運動であるので計測法にとくに厳密な規定はもうけない。

- 6 肩関節の運動の中心は解剖学的には肩峰ではないが計測上の容易さから肩峰を用いることにした。
- 7 肩甲上腕関節を単独に計測するときは肩甲骨を固定する。
- 8 対立運動の反対の運動と復位運動 *retroposition* とする。
- 9 母指尺側内転において、示指をこえて掌面で尺側に行く運動を *transpalmar abduction* という。
- 10 母指の最大撓側外転位から1-2中手骨間の最大角度を保ちながら、CM関節で第1中手骨を手の尺側線に近づける運動を分廻し運動 *cirouduction* ともいい、その角度は掌面と第1手骨のなす角度とする。
- 11 中指自体の掌面上の運動は撓側外転 *radial abduction*、尺側外転 *ulnar abduction* とする。
- 12 足部は理論上長軸方向における回旋運動すなわち回外 *supination* と回内 *pronation* と背底屈と外内転があるが、実際はこれらの運動は合成されて外がえし *eversion* (回内、外転、背屈)、内がえし *inversion* (回外、内転、底屈) の複合運動としかならず単独運動はおこらない(内外転のみわずかに単独運動がある。)。従って足部の運動は外がえし、内がえし運動としてまとめた。いわゆる内反外反という言葉は変形をあらわす言葉として使用する(とくに用語委員会に付託)。内反運動、外反運動という言葉も不適當であり、ドイツ語では *eversion* は *Auswärtskantung*、*inversion* は *Einwärtskantung* として表現されている。

(測定について)

- 13 測定しようとする関節は十分露出すること、とくに女性の場合、個室、更衣室の用意が必要である。
- 14 ケースに精神的にもおちつかせる、よく説明し、気楽な姿勢をとらせる。
- 15 基本軸の固定が大切である。固定する場所は関節の近位あるいは遠位端であって関節そのものではない。
- 16 角度計の軸は関節の軸とよく一致させる、軸の平行移動はさしつかえない。
- 17 角度計は2回あてること、動かす前と後に測定する。
- 18 2関節筋(多関節筋)のある関節ではその影響を十分配慮すること。
- 19 関節痛のあるさいはどの範囲で痛みがあるかを発見し記載すること、検査は注意深くゆっくり行う。

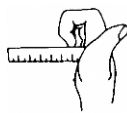
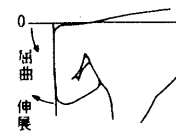
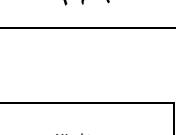
Ⅱ. 上 肢 計 測

関節名 (部位名)	運動方向	正常可 動範囲	角度計のあてかた			注 意	備 考
			基本軸	移動軸	軸 心		
肩甲帯 shoulder girdle ※注5	屈曲 flexion	0～20	肩峰を通る前額面の投影線	頭頂と肩峰を結んだ線	頭 頂		
	伸展 extension	0～20	〃	〃	〃		
	挙上 elevation	0～20	肩峰を結ぶ水平線	肩峰を胸骨上縁を結んだ線	胸骨上縁		
	引下げ depression	0～10	〃	〃	〃		
肩 shoulder (肩甲骨の動きも含む) ※注7	屈曲 (前方挙上) flexion	0～180	肩峰を通る垂直線(起立または座位)	上 腕 肩	肩 峰 ※注6	体幹が動かないように固定する 脊柱が前後屈しないように	
	伸展 (後方挙上) extension	0～50	〃	〃	〃		
	外転 (側方挙上) abduction	0～180	〃	〃	〃	角度計は前後どちらにあててもよい 体の側屈が起これぬように90°以上になったら前腕を回外することを原則とする 内転の計測は20° または45° 屈曲位ではかる方法もある	
	内転 adduction	0	〃	〃	〃		
	外旋 external rotation	0～90	床に垂直(右図)	尺 骨	肘 頭	上腕を体幹に接し、肘関節を前方に90°屈曲した位置を原点とする—1 肩関節を90° 外転した位置ではかることもある—2	
	内旋 internal rotation	0～90	〃	〃	〃		
	水平屈面 horizontal adduction (flexion)	0～135	肩峰を通る前額面の投影線	外転90° より水平面を移動した上腕骨長軸	肩 峰	手掌は原則として下むき	
	水平伸展 horizontal adduction (extension)	0～30	〃	〃	〃		
肘 elbow ※注1	屈曲 flexion	0～145	上腕肩	撓肩	肘関節	角度計は外側にあてる	
	伸展 extension	0～5	〃	撓肩	〃		

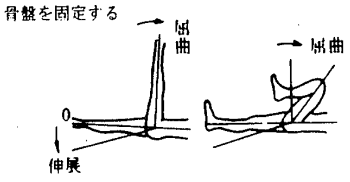
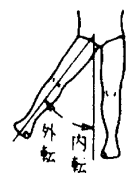
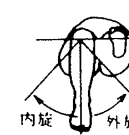
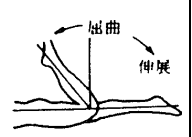
前腕 forearm	回内 pronation	0～90	床に垂直 (右図)	伸展した母指を 含む手掌面	第3指先	肩の回旋が入らない ように肘を90°に屈 曲する 0°の位置は前腕 の中間位回外は手掌 が天井をむいた状態 回内は手掌が床面を むいた状態	
	回外 supination	0～90	〃	〃	〃		
手 wrist	背屈 extension (dorsi- flexion)	0～70	撓肩	第2中手肩	手関節	前腕は中間位、角度 計は撓側にあてる	
	掌屈 flexion (palmar- flexion)	0～90	〃	〃	〃		
手 wrists	撓屈 radial- flexion	0～25	前腕肩（前腕 軸の中心）	第3指先	手関節		
	尺屈 ulnar- flexion	0～55	〃	〃	〃		

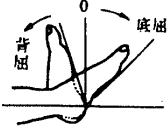
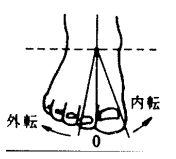
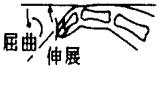
Ⅲ. 手 指 計 測

関節名 (部位名)	運動方向	正常可 動範囲	角度計のあてかた			注意	備考
			基本軸	移動軸	軸 心		
母指 thumb ※注1	撓側外転 radial abduction	0～60	示 指 撓骨の延長上	母 指	手根中 手関節	運動方向は手掌面 上 ※注9	
	尺側内転 ulnar abduction	0	〃	〃	〃		
	掌側外転 palmar abduction	0～90	〃	〃	〃	運動方向は手掌面 に直角	
	掌側内転 pa lmar adduction	0	〃	〃	〃		
	屈曲(MP) flexion(MP)	0～60	第1中手骨	第1基節骨	MP関節		
	伸展(MP) extension (MP)	0～10	〃	〃	〃		
	屈曲(IP) fl exion(IP)	0～80	第1基節骨	第1末節骨	IP関節		
	伸展(IP) extension (IP)	0～10	〃	〃	〃		
対立 opposition ※注 8 ※注10						左図のように母指 尖端と小指MP間 の距離で表示 この運動は外転、回旋、屈曲の3要 素の合成で軸心も一点でないので角 度で計測することは困難	

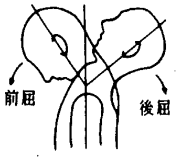
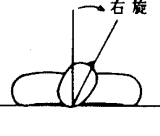
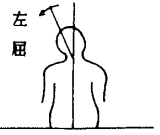
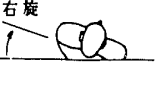
指 fingers ※注1	屈曲(MP) flexion(MP)	0～90	第2～5中手骨	第2～5基節骨	MP関節	正解には右のような計測をすべきであるが下図のように距離で表示することもできる  指先とproximalまたはdistalmar crease間の距離(上図) 第3指を中心に手掌面上で指のはなれる運動を外転とし指のあわせる運動を内転とする指先間の距離で表示することもできる ※注11	
	伸展(MP) extension(MP)	0～45	//	//	//		
	屈曲(PIP) flexion(PIP)	0～100	第2～5基節骨	第2～5中節骨	PIP関節		
	伸展(PIP)ext ension (PIP)	0	//	//	//		
	屈曲(DIP) flexion (DIP)	0～80	第2～5中節骨	第2～5末節骨	DIP関節		
	伸展(DIP) extension (DIP)	0	//	//	//		
	外転 abduction		第3指軸	2. 4. 5指軸	両軸の交点		
	内転 adduction		//	//	//		

IV. 下 肢 計 測

関節名 (部位名)	運動方向	正常可 動範囲	角度計のあてかた			注意	備考
			基本軸	移動軸	軸 心		
股 hip ※注4	屈曲 flexion	0～90 0～125 (膝屈曲の とき)	体幹と平行 に	大腿骨 (大転子と大 腿骨外顆の中 心)	股関節 (大転子)	骨盤を固定する 	
	伸展 extension	0～15	//	//	//		
	外転 abduction	0～45	左右の上前 腸骨棘を結 ぶ線への垂 線	大腿中央線 (上前腸骨棘 より膝蓋骨中 心)	上 前 腸 骨 棘	骨盤を固定 外旋しないように する内転計測の ときは反対肢 を屈曲挙上し て、その下を おして内転す る	
	内転 adduction	0～20	//	//	//		
	外旋 external rotation	0～45	膝90° 屈曲 位で膝蓋骨 より下した 垂線	下 腿 長 軸	膝 蓋 骨	膝関節を屈曲 (90°) し股関節回旋の角 度が下腿骨の移動 角度で計測でき る肢位(背臥位で 膝から下をベッ トより出す。ま たは腹臥位) 骨 盤の代償を少な くするように	
	内旋 internal rotation	0～45	//	//	//		
膝 knee ※注1	屈 flexion	0～130	大腿骨 (大転子と大 腿骨外顆の中 心)	下腿骨 (排骨小頭よ り排骨果)	膝 関 節	原則として腹臥位 で行うが股関節の 屈曲縮等があり 腹臥拘位がとれ ないときは背臥 位ではかること もある	
	伸展 extension	0	//	//	//		

関節名 (部位名)	運動方向	正常可 動範囲	角度計のあてかた			注意	備考
			基本軸	移動軸	軸 心		
下腿 lower leg	外旋 external rotation	0～20	膝屈曲90° の位置で足 長軸が自然 に向く位置	移動した長軸	踵 部	腰かけ坐位（腹臥、 背臥位もあり得る） 膝を90° 屈曲位に垂 らし足関節を中間い とし、足長軸の移動 軸ではかる。この運 動は膝と足関節の複 合運動で、膝伸転位 ではおこらない。	
	内旋 internal rotation	0～10	〃	〃	〃		
足(関節) ankle	背屈 dorsi-flexio n	0～20	下腿骨軸へ の垂線（足 底部）	第5中足骨	足 底	腰かけ坐位（腹臥、 背臥位もあり得る） 膝を屈曲して2関節 筋の緊張を除いて計 ること	
	底屈 plantal flexion	0～45	〃	〃	〃		
足部 foot ※注12	外がえし eversion	0～20	下腿骨軸へ の垂線（足 底部）	足底面	特に定めず	同上	
	内がえし inversion	0～30	〃	〃	〃		
	外転 abduction	0～？	第1第2中足 骨の間の足 軸	同左	前足部関節	足底で、足外縁また は内縁で計測するこ ともできる膝伸展位	
	内転 adduction	0～？	〃	〃	〃		
母指(趾) great toe	屈曲(MP)	0～35	第1中足骨	第1基節骨	MP		
	伸展(MP)	0～60	〃	〃	〃		
	屈曲(IP)	0～60	第1基節骨	第1末節骨	IP		
	伸展(IP)	0	〃	〃	〃		
足指(趾) toes	屈曲(MP)	0～35	第2～5中足 骨	第2～5基節骨	MP		
	伸展(MP)	0～40	〃	〃	〃		
	屈曲(PIP)	0～35	第2～5基節 骨	第2～5中節骨	PIP		
	伸展(PIP)	0	〃	〃	〃		
	屈曲(DIP)	0～50	第2～5中節 骨	第2～5末節骨	DIP		
	伸展(DIP)	0	〃	〃	〃		

V、体幹計測

関節名 (部位名)	運動方向		正常可 動範囲	角度計のあてかた			注意	備考
				基本軸	移動軸	軸 心		
頸部 cervical	前屈 (屈曲) flexion		0～60	前額面中央線	耳孔と頭頂と の結合線	肩関節中心 (肩峰部)	頭部体幹の側面で行 う 原則として腰かけ坐 位、立位、その他立 位、臥位	
	後屈 (伸展) extension		0～50	〃	〃	〃		
	回旋 (捻転) rotation	左 旋	0～70	背面	鼻梁と後頭結 節との結合線	頭 頂	測定は頭頂水平面 で行なう。体位は腰か け坐位、 立位または背臥位	
		右 旋	0～70	〃	〃	〃		
	側屈 lateral bending	左 屈	0～60	第7頸椎棘突 起と第5腰椎 棘突起との結 合線	頭頂は第7頸椎 棘突起との結 合線	第7頸椎棘突起	測定は頭頂水平面 で行なう、体位は腰か け坐位、立位背臥位 または腹臥位	
		右 屈	0～50	〃	〃	〃		
胸腰部 thoracic & lumber	前屈 (屈曲) flexion		0～45	第5腰椎棘突 起をとおる垂 線 側臥位では水 平線	第7頸椎棘突起 と第5腰椎棘突 起との結合線	第5腰椎棘突起	測定は体幹側面で行 なう 体位は腰かけ坐位、 立位または側臥位、 軸心は第5腰椎棘突 起が判断としない場 合はジャコビー線の 中央にたてた垂線と の交差点を用いても よい	
	後屈 (伸展) extension		0～30	〃	〃	〃		
	回旋 (捻転) rotation	左 旋	0～40	腰かけの背あ て(垂線)の 線	両肩甲部の切 線の背あての 延長線の交点	両肩甲部の切 線の延長線の交点	測定は腰かけの背あ てに腰殿部を固定し た位置で行なう 体位は腰かけ坐位	
		右 旋	0～40	〃	〃	〃		
	側屈 lateral bending	左 屈	0～50	ジャコビー線 の midpoint にた てた垂線	第7頸椎棘突起 と第5腰椎棘突 起との結合線	第5腰椎棘突起	測定は体幹の背面で 行なう体位は腰かけ 坐位または立位	
		右 屈	0～50	〃	〃	〃		

注：脊柱に変形があるときは測定は困難なので便宜上起立位で腰部を前屈し上肢を伸展させてその指尖と床面との距離をcmで表現する。側屈も同じ。起立不能の時は臥位のまま下肢を伸展させた位置で鼻先母趾先端までの距離をcmで表す胸腰部の測定には股関節の運動がはいらぬよう注意する。そのためフレキシブルテープで長さを計測するのもよい。

VI. 顎関節計測

顎関節temporomandibular joint	・開口位で上顎の正中線上で上歯と下歯の先端との間の距離をcmで表現する ・左右偏立lateral deviationに関しては上顎の正中線を軸として下歯列の動きを左右ともcmで表現する ・正常値は上下第1切歯対向線間の距離5.0cm、左右偏位は1.0cmである
----------------------------	--

2 徒手筋力テスト

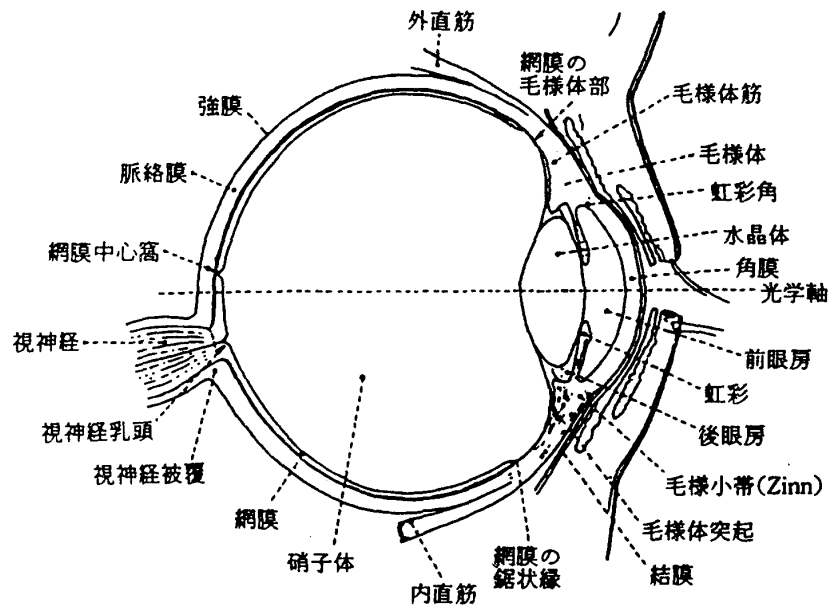
筋力テストは徒手による筋力検査によって行い、評価は次の内容で区分します。

○	正常	検者の手で加える十分な抵抗を排して自動可能な場合	5
	やや減	検者の手を置いた程度の抵抗を排して自動可能な場合	4
△	半減	検者の加える抵抗には抗し得ないが、自分の体部分の重さに抗して自動可能な場合	3
×	著減	自分の体部分の重さに抗し得ないが、それを排するような体位では自動可能な場合	2
	消失	いかなる体位でも関節の自動が不能な場合	1 0

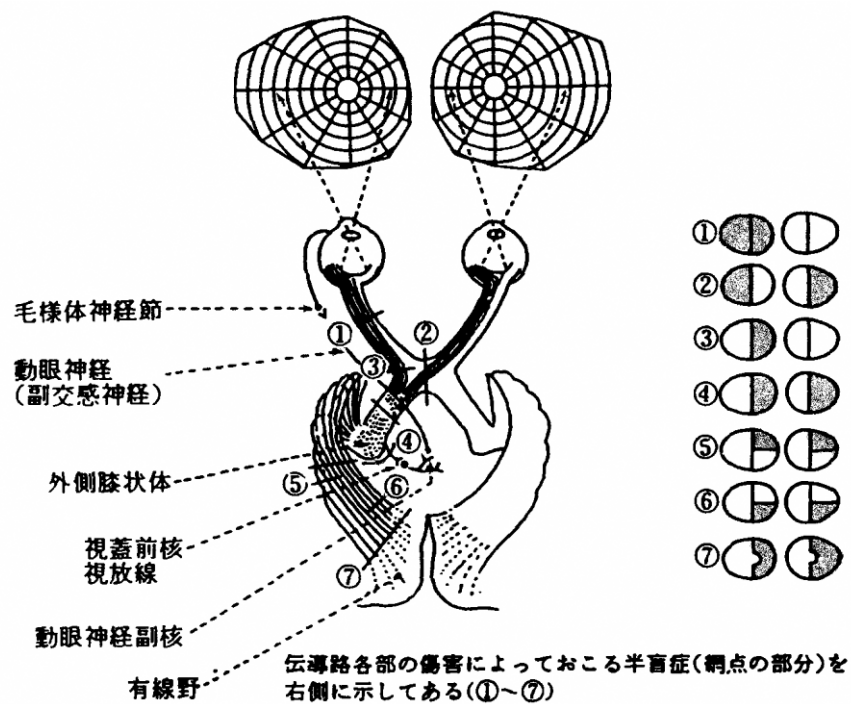
(6段階評価)

3 身体の解剖図

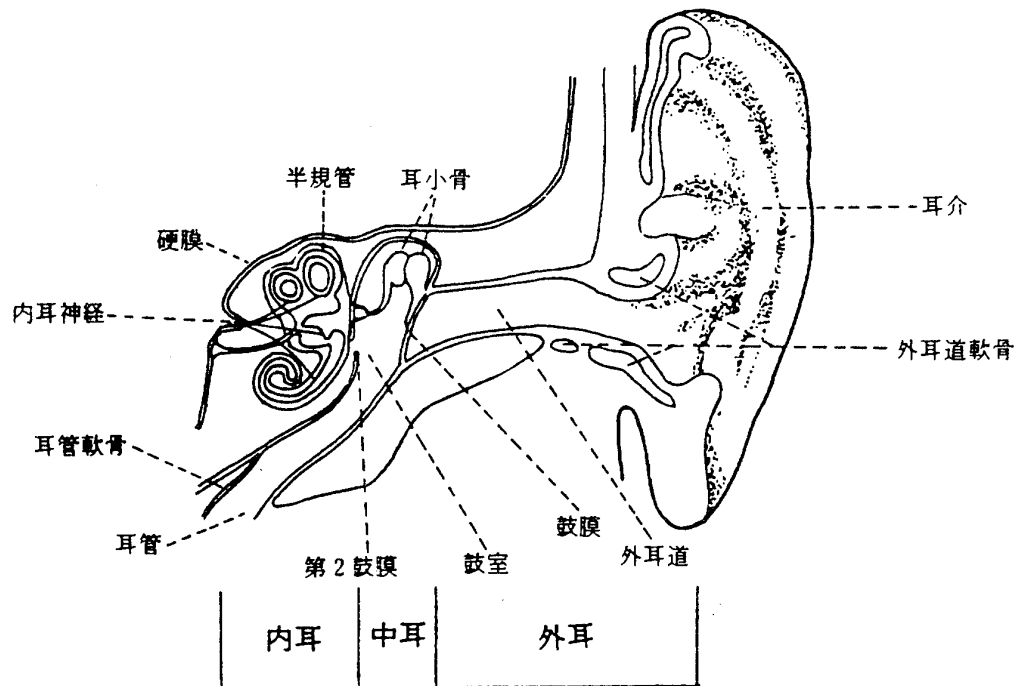
[目の構造]



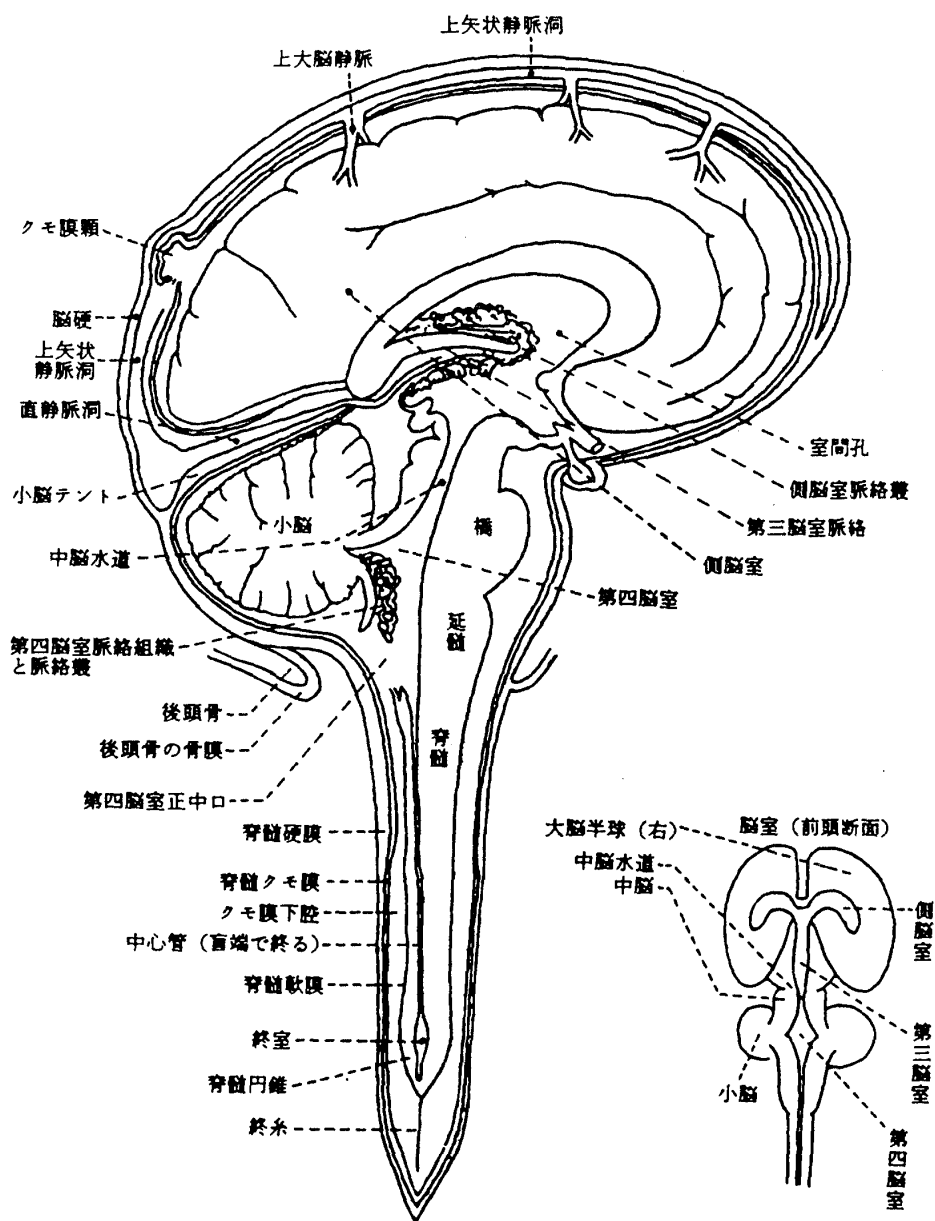
視野と視覚伝導路 (Holmans)



[耳の構造]

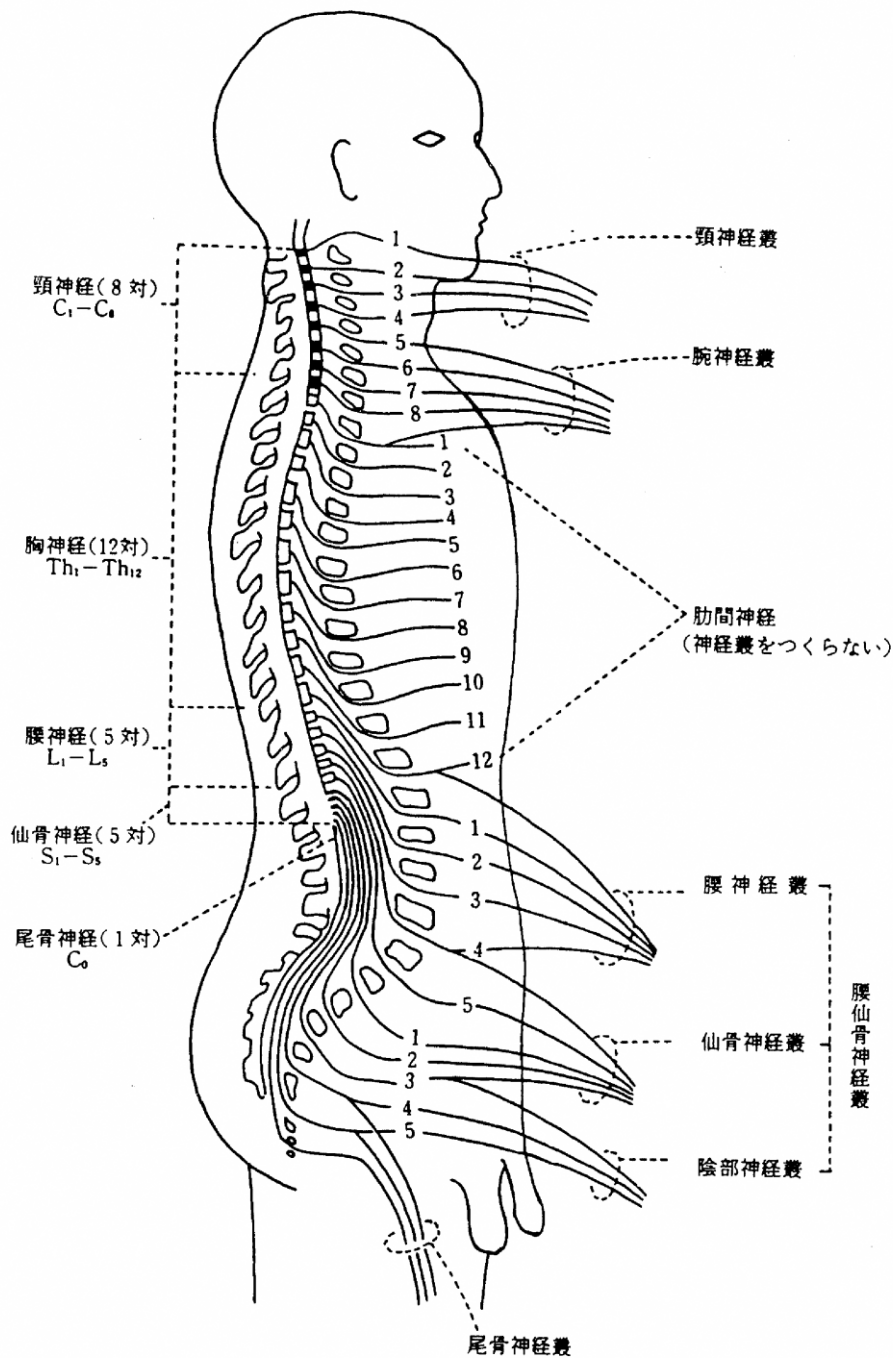


[脳及び神経系①]



[脳及び神経系②]

[脳及び神経系②]



脊髄の運動と感覚レベル

感覚レベル

聴覚, 平衡, 味覚
咽頭, 食道, 喉頭, 気管

後頭部 C 1, 2.

頸部 C 2, 3, 4

肩 C 4, 5

腕
腋窩神経 C 5, 6
橈骨神経 C 6, 7, 8
正中神経 C 6, 7, 8
尺骨神経 C 8, T 1

胸部
肩甲骨 (T 3)

肩甲骨角 (T 7)

上腕部

腹部

へそ (T 10)

臀部 (T 12, L 1)

鼠径部 (L 1, 2)

大腿部

前部

内側

外側

後部

下腿部

(L 4, 5)

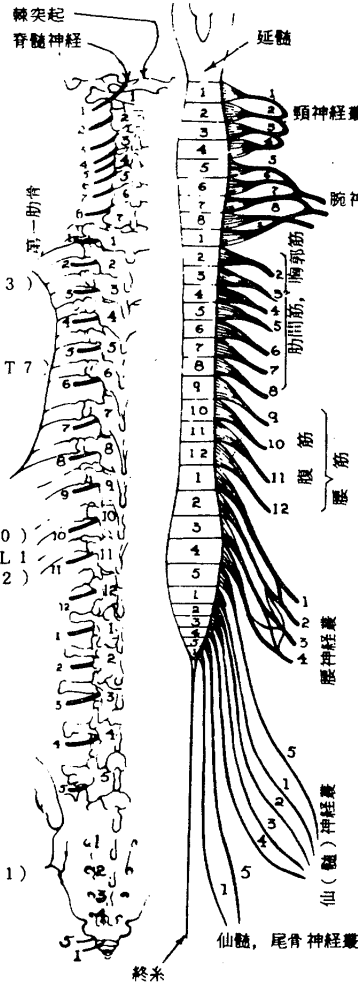
陰囊陰茎

会陰 (S 1, 2)

膀胱 (S 3, 4)

直腸 (S 4, 5)

肛門 (S 5, 尾髄 1)



運動レベル

顔面筋 (脳神経 VII)

咽頭・口蓋筋 X

喉頭筋 X

舌筋 XII

食道 X

胸鎖乳頭筋 X (C 1, 2, 3)

頸筋 (C 1, 2, 3)

僧帽筋 (C 3, 4)

菱形筋 (C 4, 5)

横隔膜 (C 3, 4, 5)

肩甲上下筋 (C 4, 5, 6)

三角筋, 腕, 橈骨筋と上腕二頭筋 (C 5, 6)

前鋸筋 (C 5, 6, 7)

大胸筋 (C 5, 6, 7, 8)

小円筋 (C 4, 5)

回内筋 (C 6, 7, 8 T 1)

上腕三頭筋 (C 6, 7, 8)

長腕伸筋指伸筋 (C 6, 7, 8)

広背筋大円筋 (C 5, 6, 7, 8)

長指伸筋 (C 7, 8 T 1)

拇指伸筋 (C 7, 8)

骨間筋, 虫様筋, 拇指球筋,

小指球筋 (C 8, T 1)

腸腰筋 (L 2, 3, 4)

縫工筋 (L 2, 3)

大腿四頭筋 (L 2, 3, 4)

臀筋 (L 4, 5 S 1)

大腿筋膜張筋 (L 4, 5)

大腿内転筋 (L 2, 3, 4)

大腿外転筋 (L 4, 5 S 1)

前脛骨筋 (L 5)

腓腹筋, ひらめ筋 (L 5, S 1, 2)

大腿二頭筋, 半膜様筋, 半腱様筋

(L 4, 5, S 1)

閉鎖筋, 梨状筋, 大腿方形筋 (4, 5, S 1)

足屈筋, 足伸筋 (L 5, S 1)

腓骨筋 (L 5, S 1)

足指屈筋 (L 5, S 1, 2)

骨間筋 (S 1, 2)

会陰筋 (S 3, 4)

膀胱筋 (S 4, 5)

直腸筋 (S 4, 5 尾髄 1)

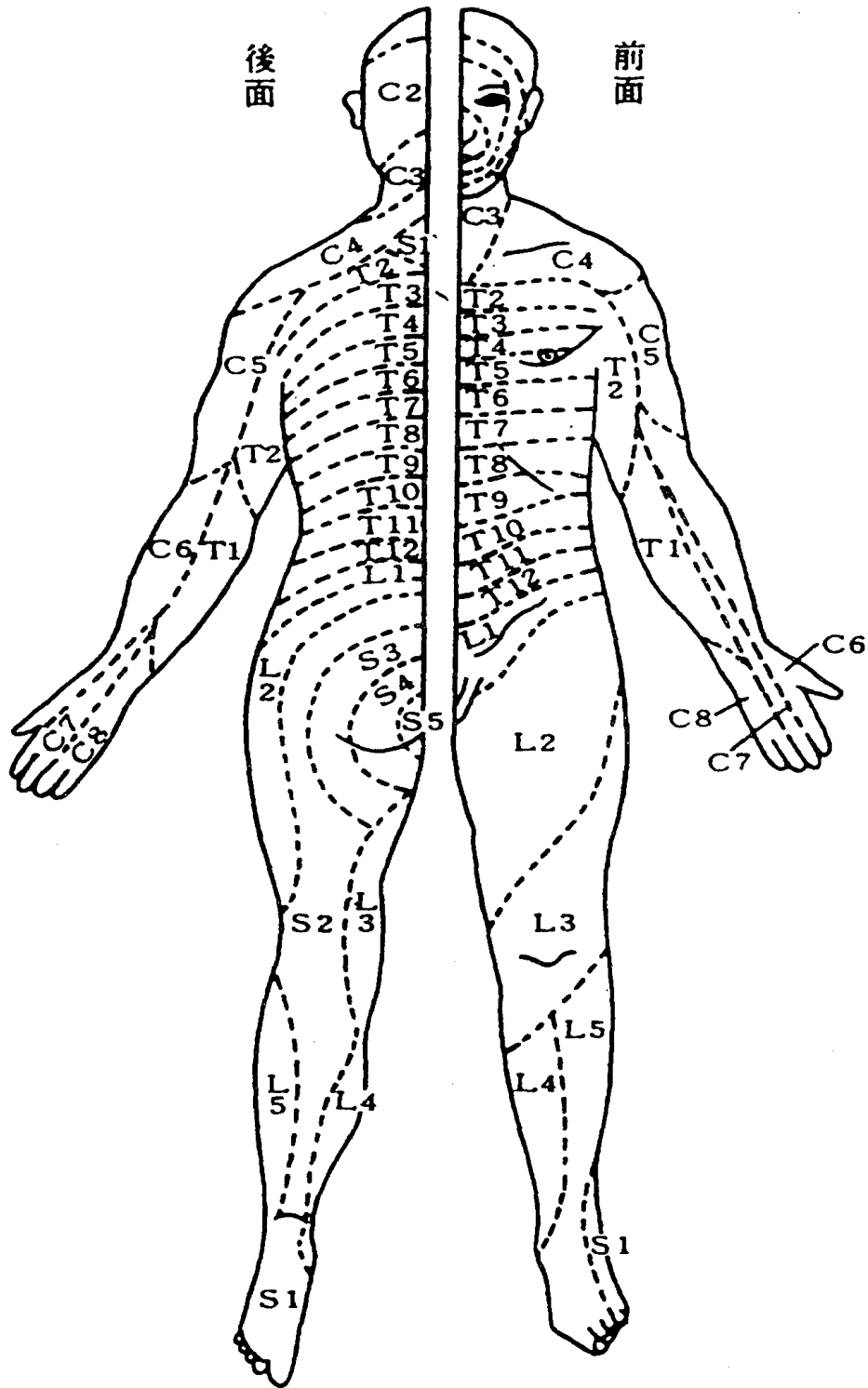
(注) C 頸髄

胸髄

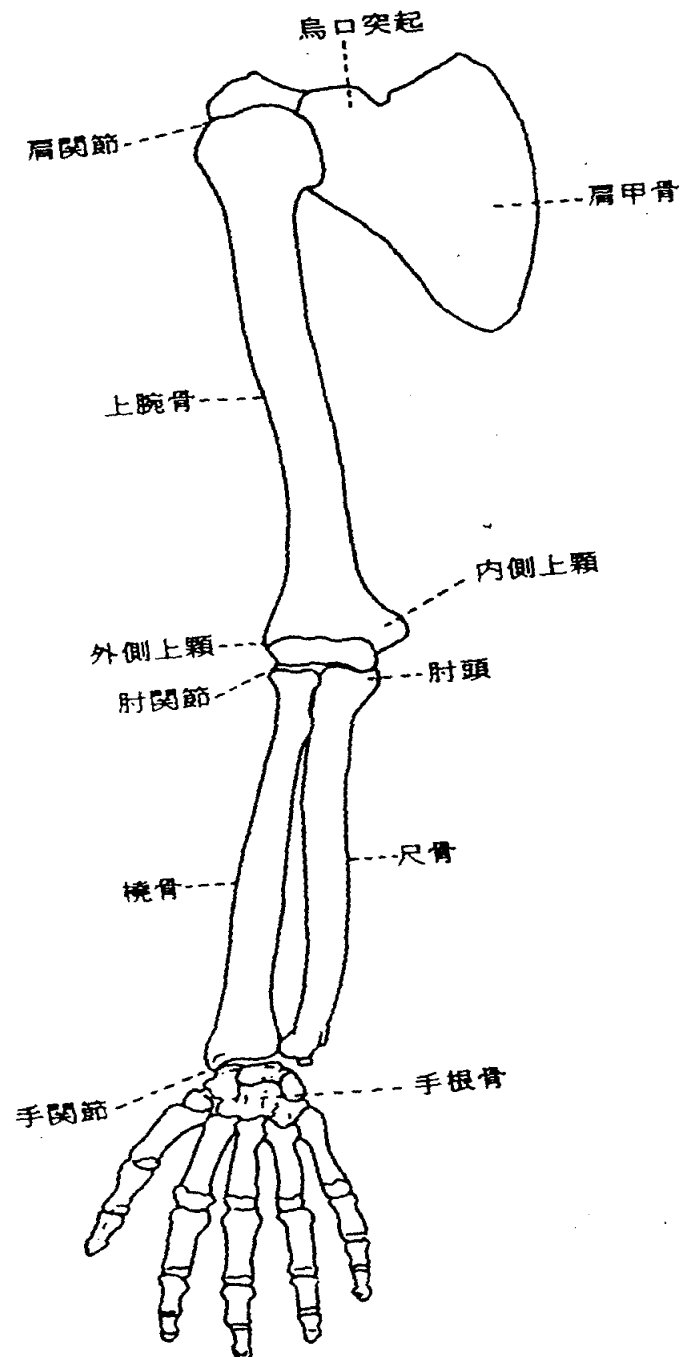
L 腰髄

S 仙髄

支配髄節と知覚

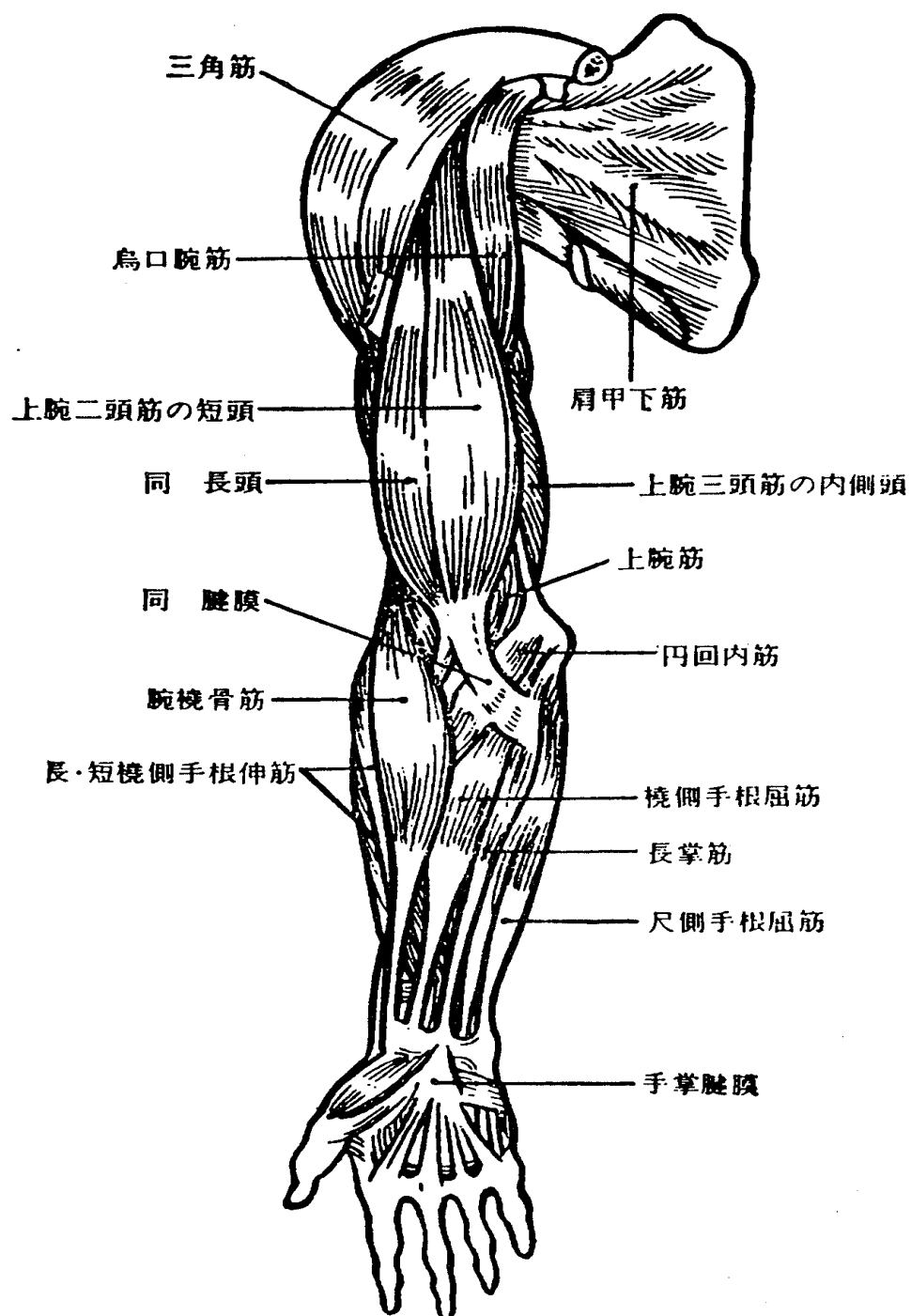


[上肢の骨格]

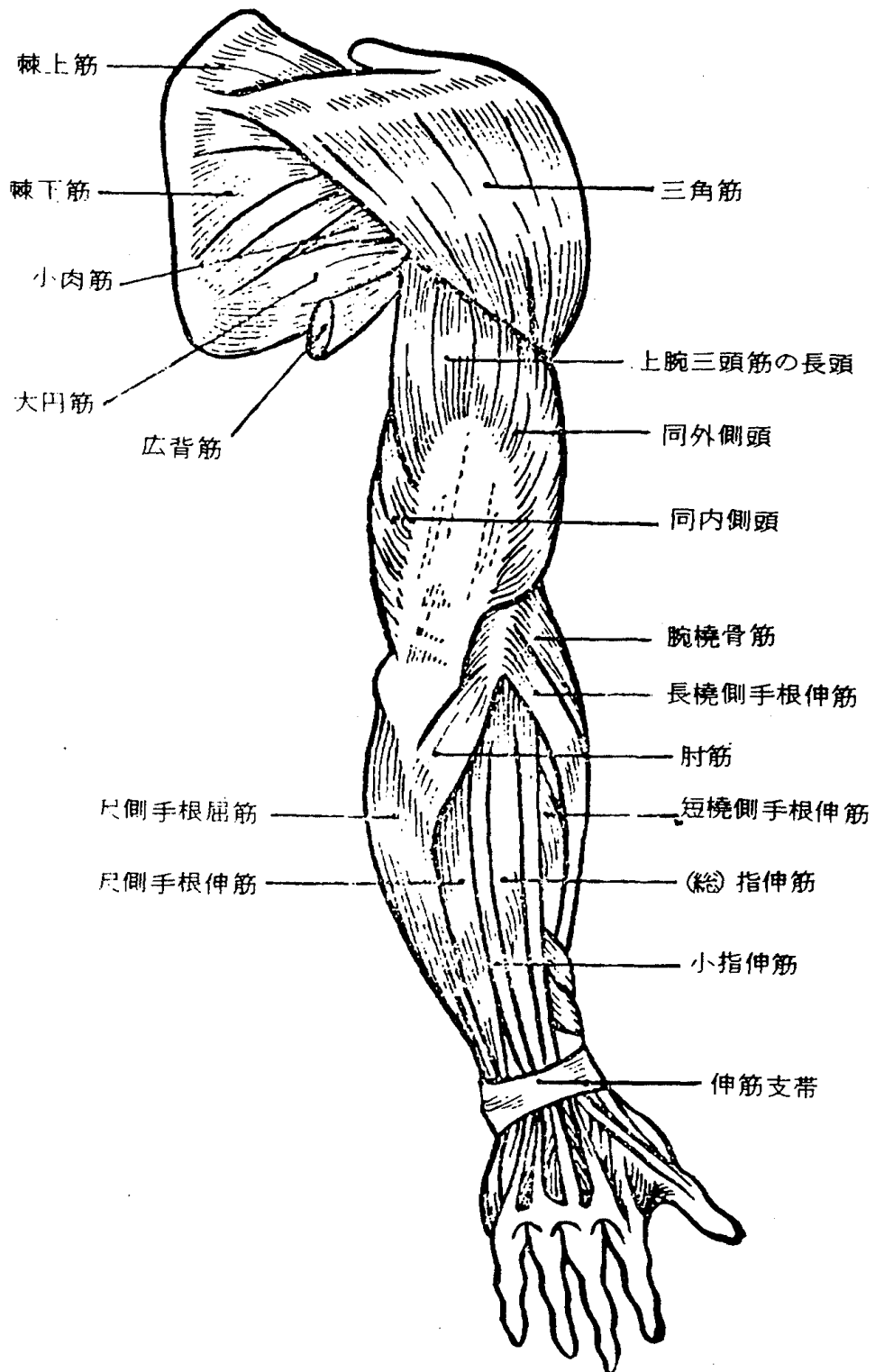


[上肢筋]

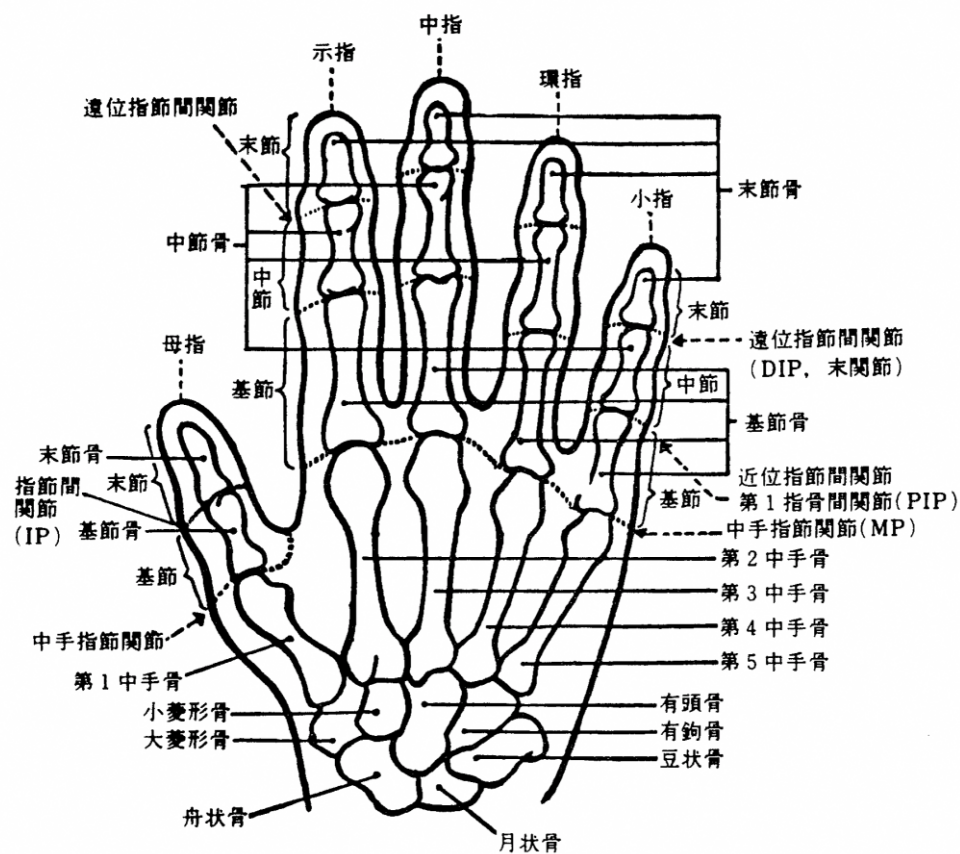
前面（屈側）



後面（伸側）

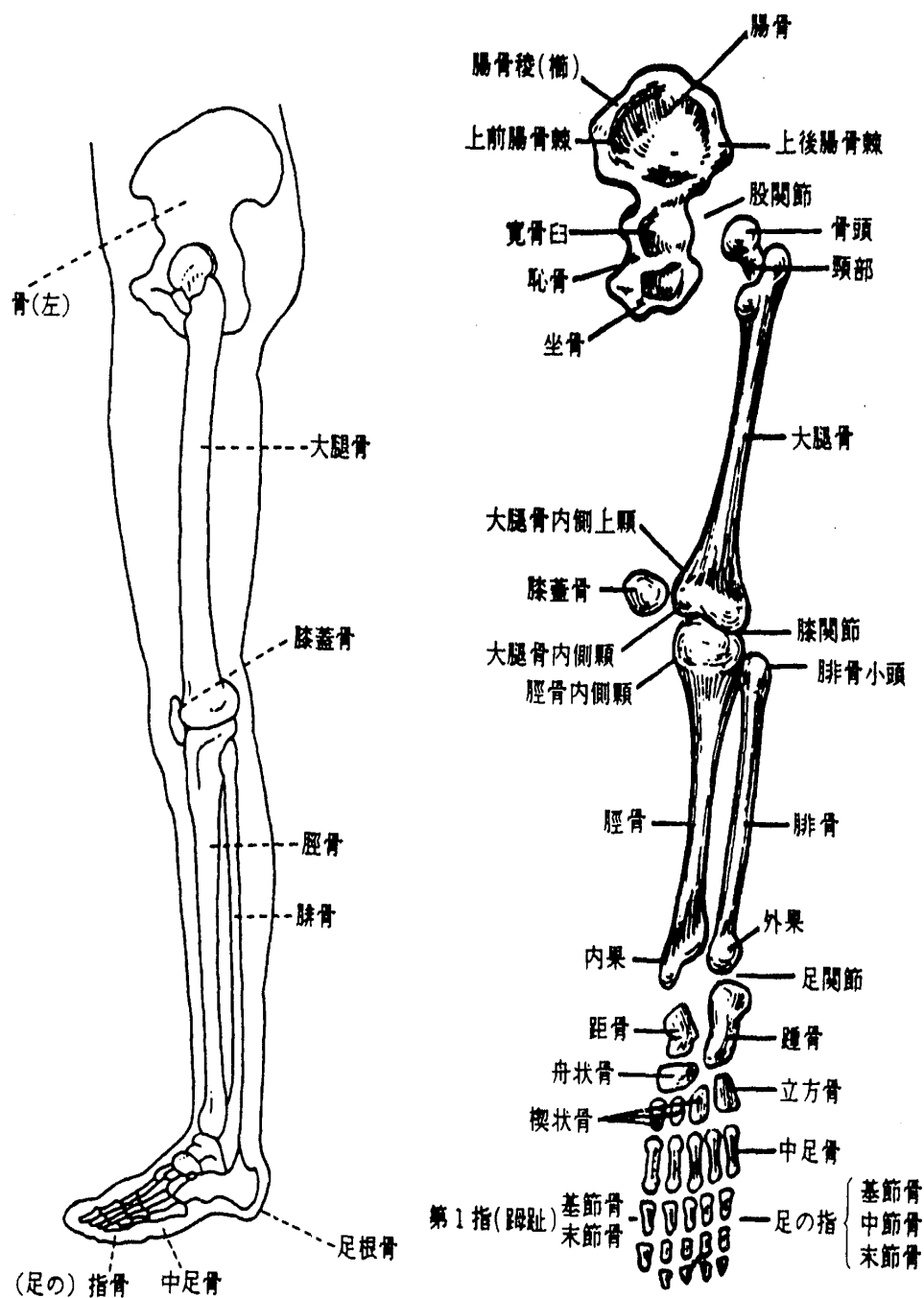


[手骨及び手指の関節]



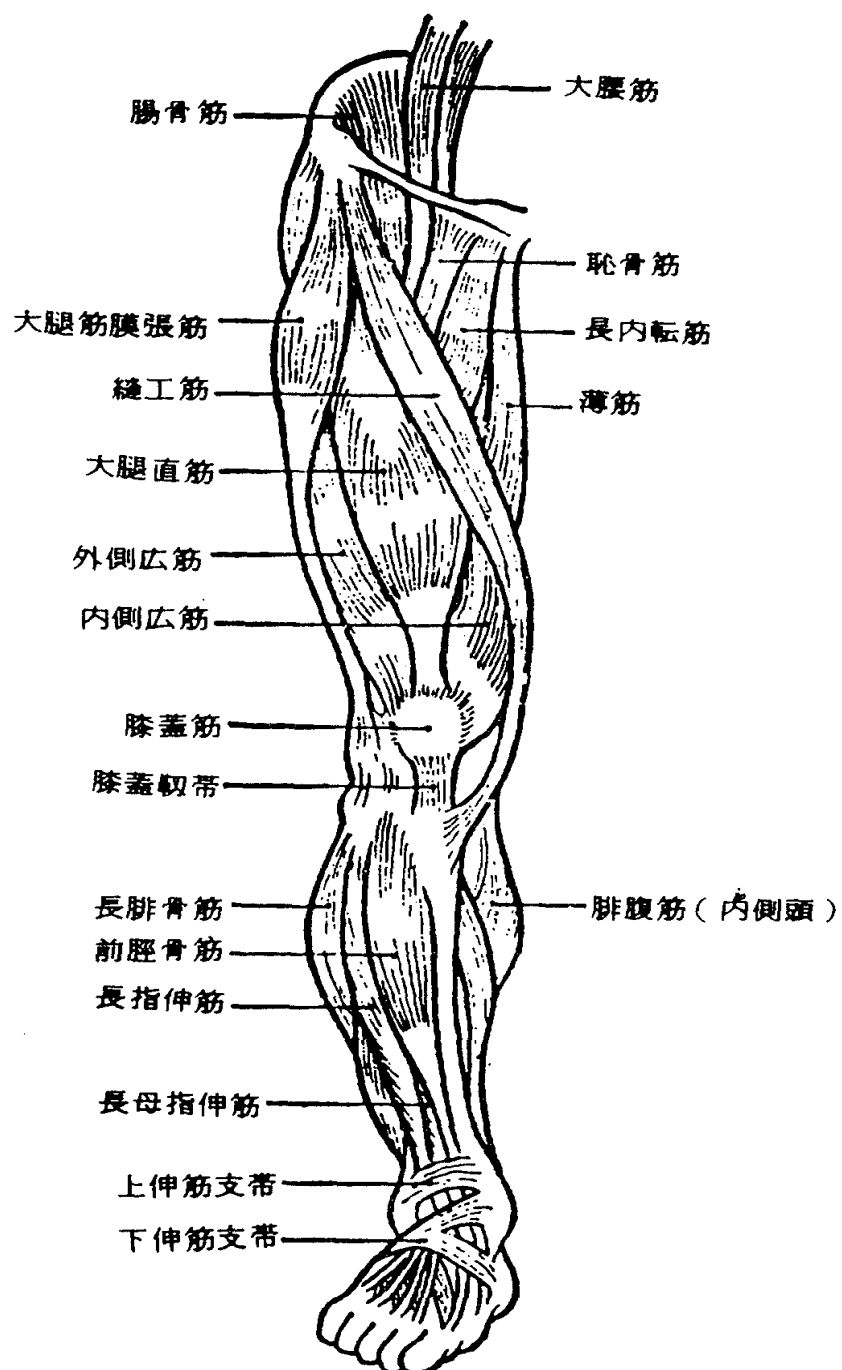
(注) 身体障害者障害程度等級表にいう「指を欠くもの」とは、母指であれば、指節間関節、その他の指においては、第1指骨間関節以上を欠くものをいう。

[下肢の骨格]

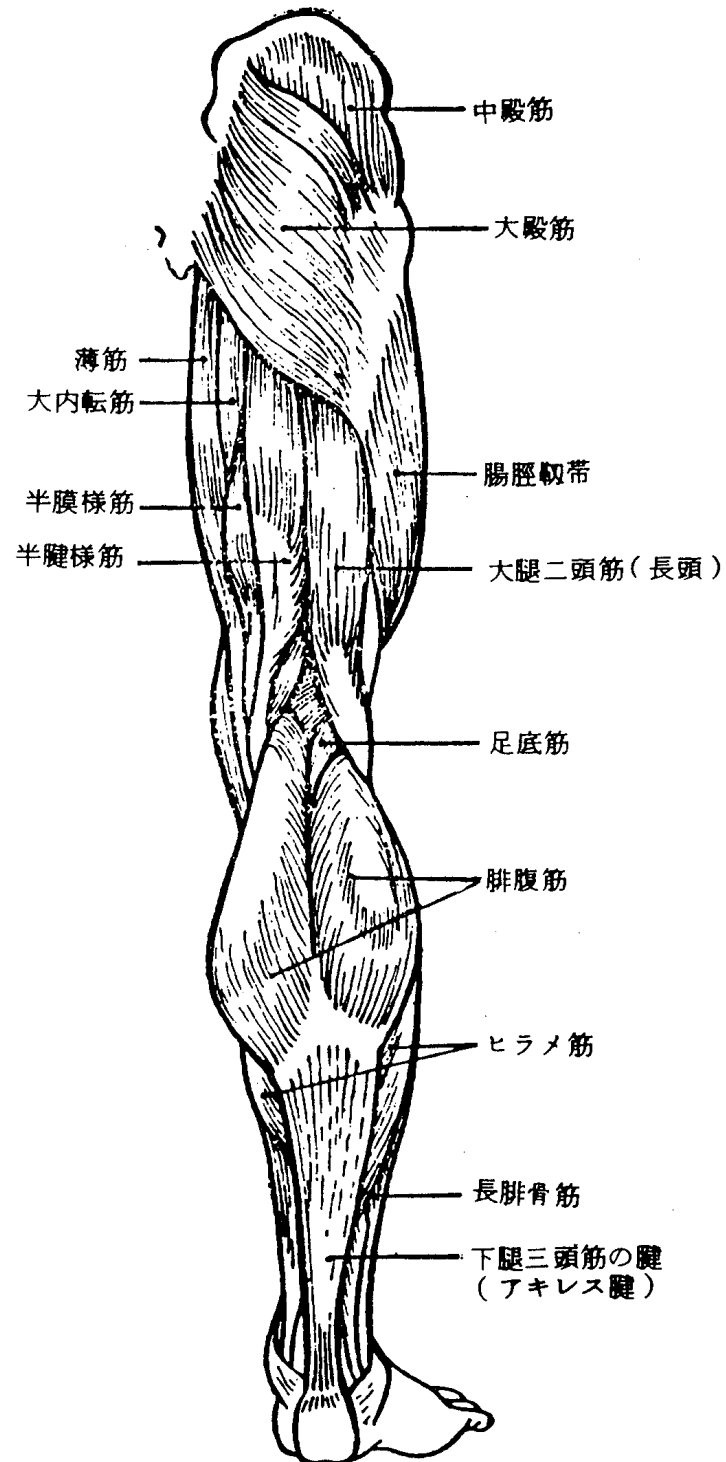


[下肢筋]

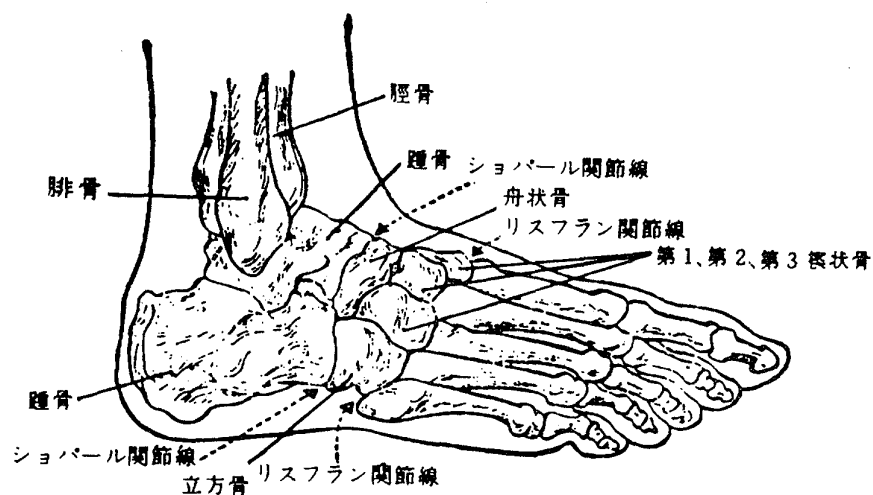
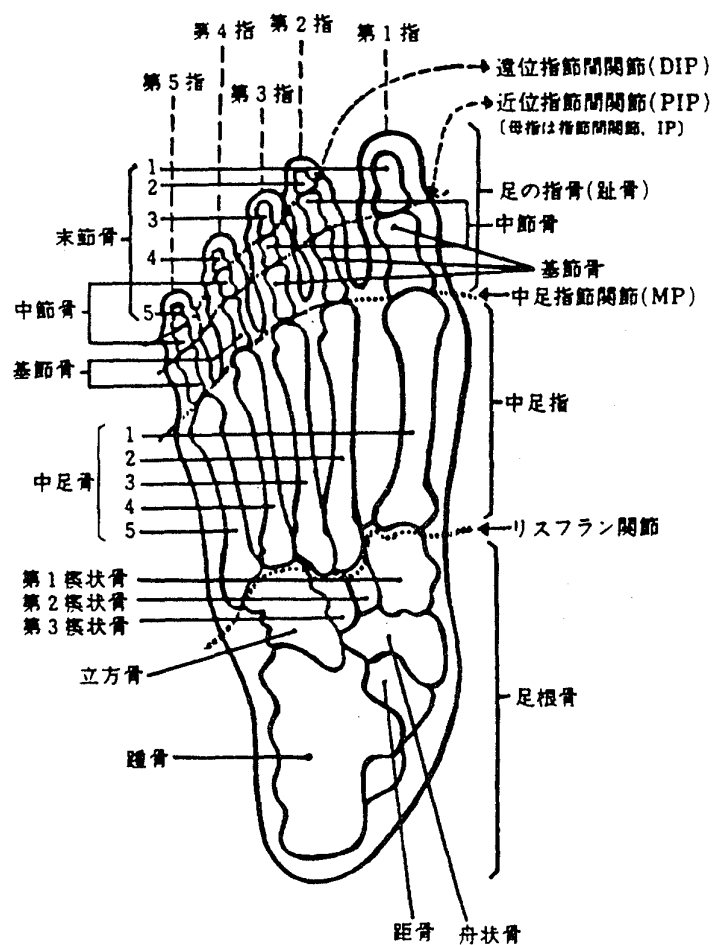
前面



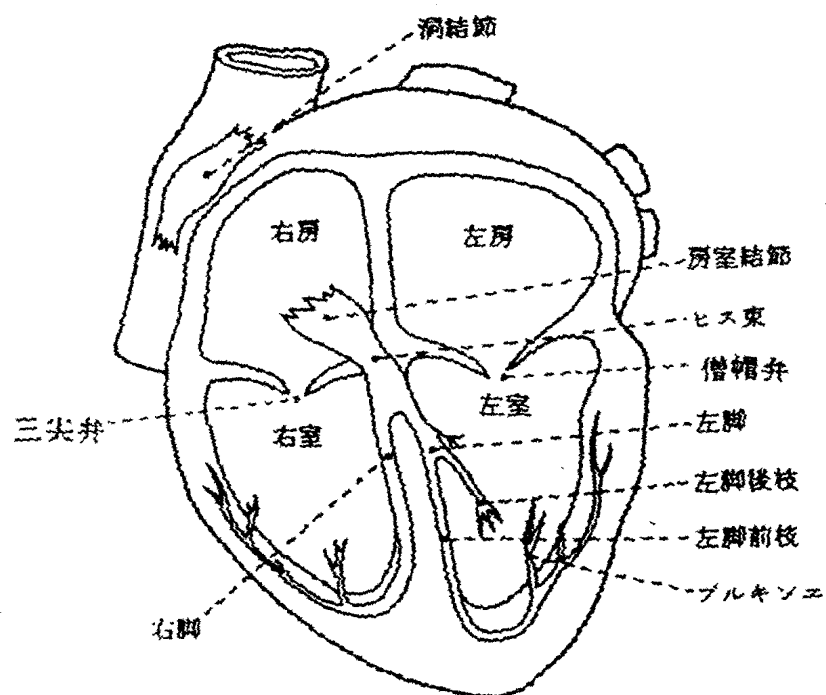
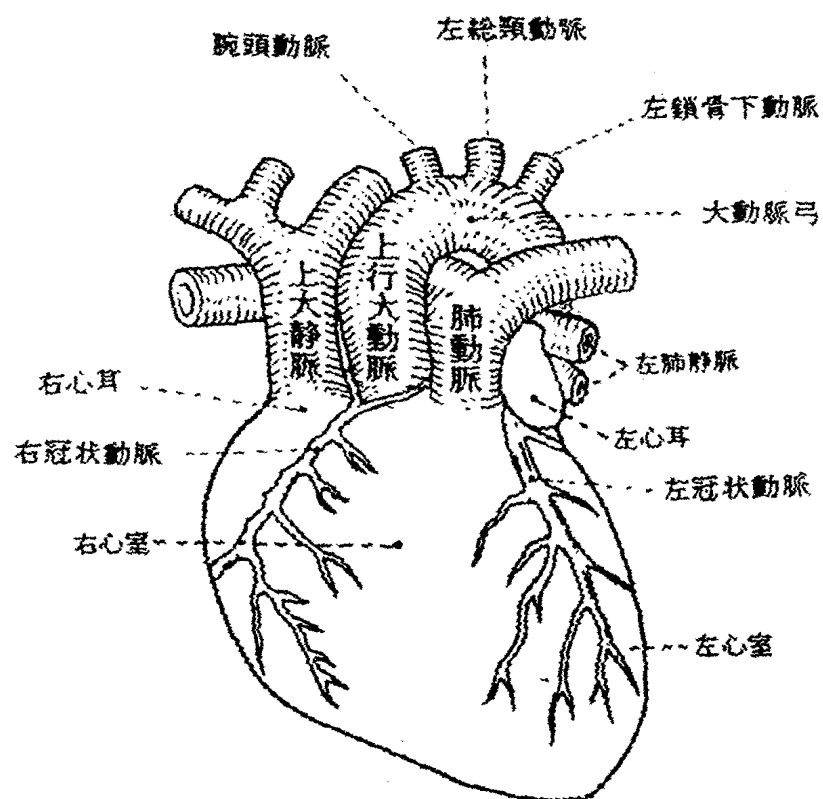
後面



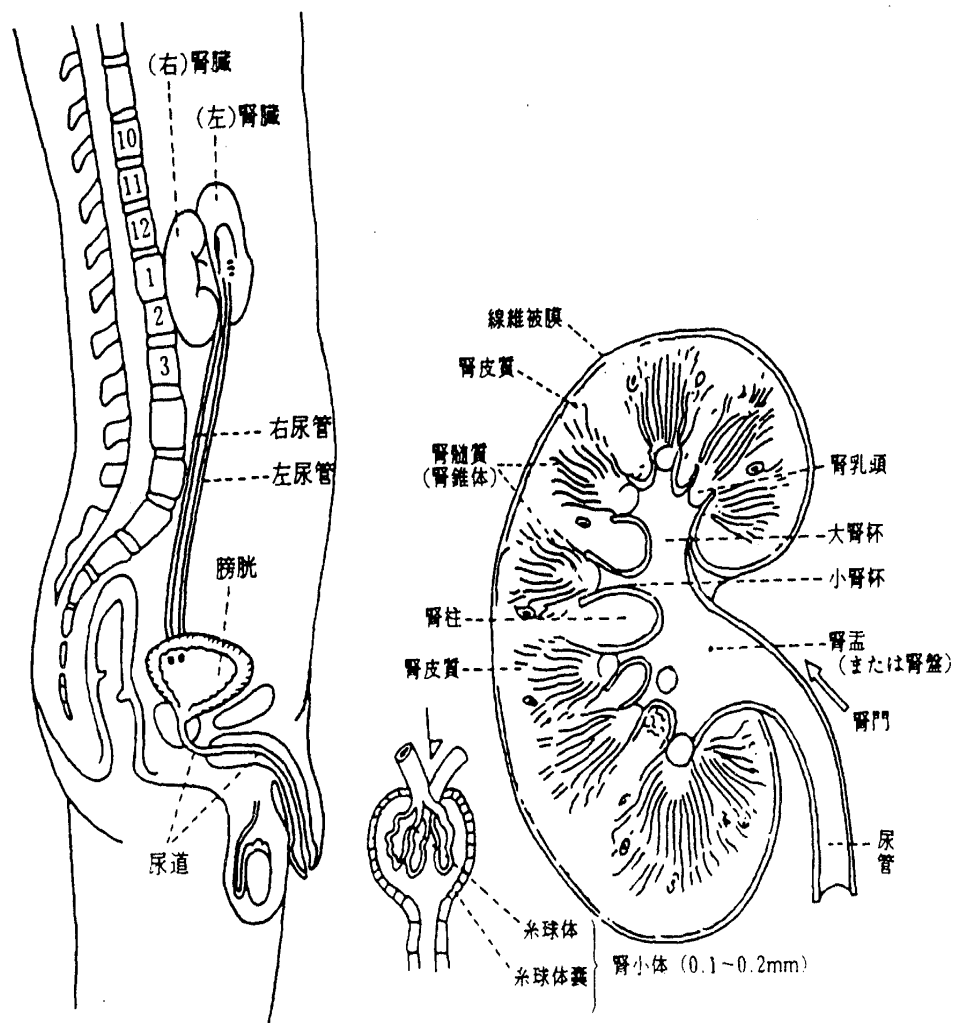
[足骨、足関節]



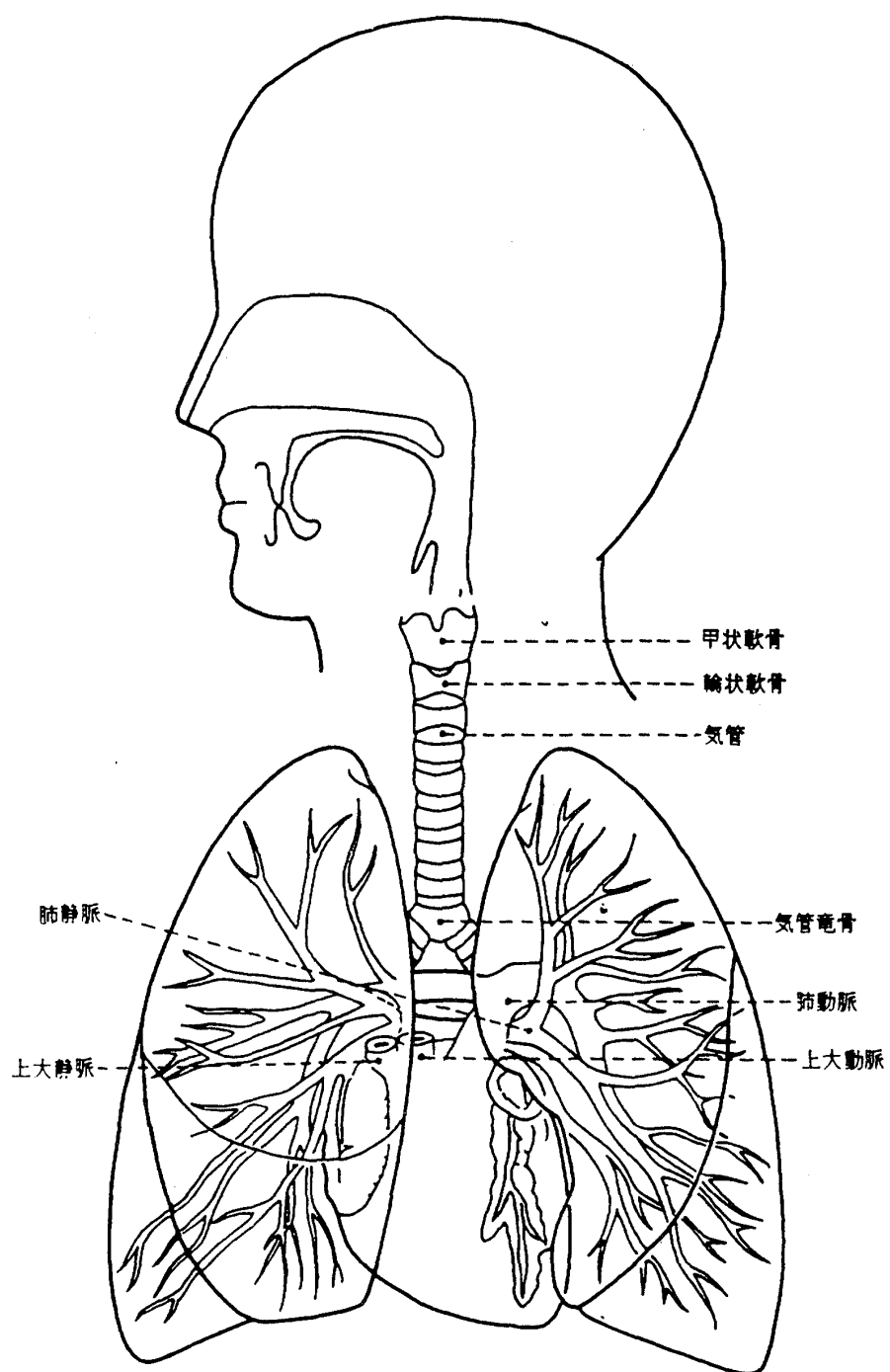
[心臓]



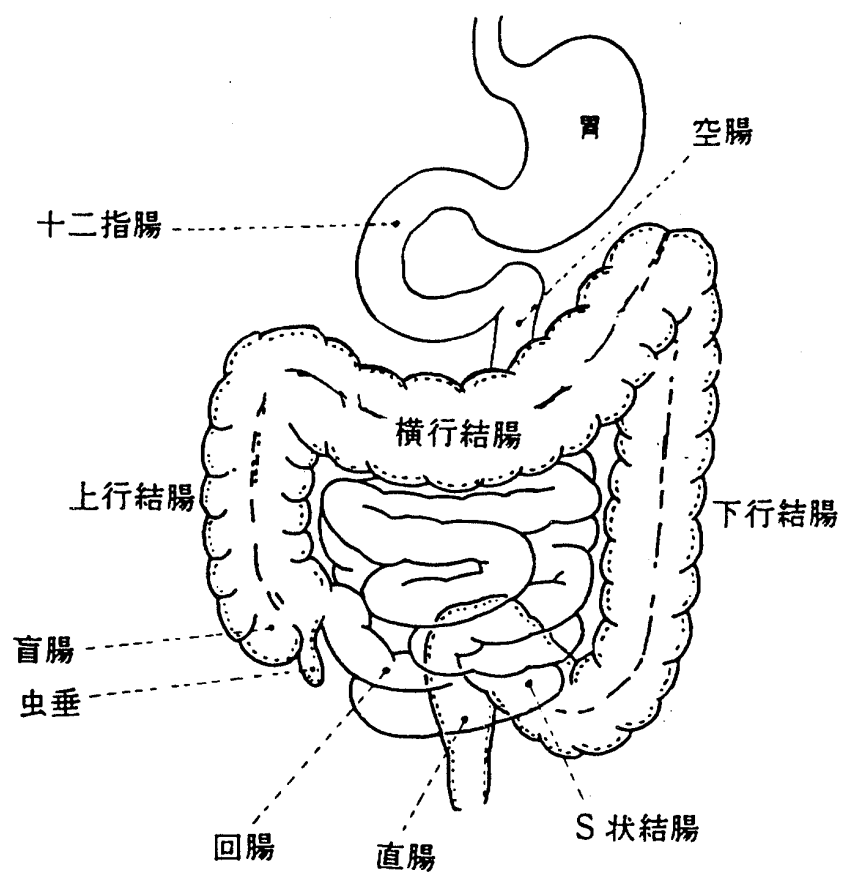
[腎臓・尿路]



[呼吸器]



[消化器]



胃		
十二指腸		
空腸		
回腸		小腸
盲腸		
上行結腸		
横行結腸		大腸
下行結腸		
S状結腸		
直腸		

4 身体障害者の範囲拡大の推移

身 体 障 害 者 の 範 囲	
身体障害者福祉法 別表	政 令 で 定 め る 障 害 (身体障害者福祉法施行令 第12条)
〔 法の制定 公布 昭24. 12. 26 施行 昭25. 4. 1 〕 ・心臓機能障害、呼吸器機能障害の追加 〔 昭42年法律第113号による改正 〕 昭42. 8. 1 施行 ・じん臓機能障害の追加 〔 昭47年法律第112号による改正 〕 昭47. 7. 1 施行 ① 政令によって身体障害を指定する方法の導入 障害の多様化、複雑化、さらに新しい類型 の障害の発生等の状況に対処するため ② そしゃく機能障害の規定 従来、音声・言語機能障害として取り扱わ れていた ③ オーディオメータのJIS規格改定に伴う聴覚 障害の規定の改定 〔 昭59年法律第63号 〕 昭59. 10. 1 施行	→・ぼうこう・直腸機能障害の追加 〔 昭59年政令第288号による改正 〕 昭59. 10. 1 施行 ・小腸機能障害の追加 〔 昭61年政令第300号による改正 〕 昭61. 10. 1 施行 ・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の追加 〔 平10年政令第10号による改正 〕 平10. 4. 1 施行 ・肝臓機能障害の追加 〔 平21年政令第298号による改正 〕 平21. 12. 24 施行

身体障害者障害程度等級表 (身体障害者福祉法施行規則別表第5号)	厚生省社会局長通知
・「障害程度等級表」を規則中に規定 〔昭29.9.2 厚生省令第52号による改正〕 ・心臓機能障害、呼吸器機能障害の追加 〔昭42.8.1 厚生省令第26号による改正〕 ・じん臓機能障害の追加 〔昭47.8.25 厚生省令第44号による改正〕 ・そしゃく機能障害、ぼうこう・直腸機能障害、脳原性運動機能障害の追加 〔昭59.9.26 厚生省令第53号による改正〕 ・小腸機能障害の追加 〔昭61.9.22 厚生省令第45号による改正〕 ・視覚障害における視野障害に視野の損失率を導入 〔平7.4.11 厚生省令第29号による改正〕 ・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害の追加 〔平10.2.9 厚生省令第14号による改正〕	・「身体障害者福祉法別表「身体障害者の範囲」の解釈について」 〔昭25.7.26 社乙発第116号〕 「身体障害者等級表について」 〔昭25.8 社乙発第123号〕 ・「身体障害者障害程度等級表について」 〔昭29.9.2 社発第685号〕 ・総合評価認定方法の導入 「身体障害者の障害程度認定について」 昭和51.4.22 社更第49号 ・「身体障害者障害程度等級について」 〔昭59.4.1 社更第52号〕 「身体障害者障害程度等級表について」 〔昭59.9.28 社更第127号〕 ①脳原性運動機能障害の認定基準の追加 ②障害が重複する場合の取扱いの明確化 (合計指数算定方法の導入)

身体障害者障害程度等級表 (身体障害者福祉法施行規則別表第5号)	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部長通知
・ 肝臓機能障害の追加 〔平21.12.24 厚生労働省令第157号による改正〕 ・ 心臓機能障害（ペースメーカー等植え込み者）及び肢体不自由（人工関節置換者）の障害認定基準の見直し ・ 聴覚障害者の認定方法の見直し ・ 小腸機能障害（日本人の推定エネルギー必要量）の障害認定基準の見直し ・ 肝臓機能障害の障害認定基準の見直し ・ じん臓機能障害の障害認定基準の見直し	・ 「身体障害者障害程度等級表の解説(身体障害者認定基準)について」 〔平成15.1.10 障発第0110001号〕 ※ 平成15.3.31 廃止 「身体障害者障害程度等級表について」 〔昭和59.9.28 社更第 127号〕 ・ 「身体障害者障害程度等級表の解説(身体障害者認定基準)について」の一部改正等について 〔平成26.1.21 障発第121第1号〕 ・ 「身体障害者障害程度等級表の解説(身体障害者認定基準)について」の一部改正等について 〔平成27.3.31 障発第0331第2号〕 ・ 「身体障害者障害程度等級表の解説(身体障害者認定基準)について」の一部改正等について 〔平成28.2.4 障発第0204第1号〕 ・ 「身体障害者障害程度等級表の解説(身体障害者認定基準)について」の一部改正等について 〔平成30.2.26 障発第0226第6号〕

身体障害者障害程度等級表 (身体障害者福祉法施行規則別表第5号)	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部長通知
・視覚障害の障害認定基準の見直し	・「身体障害者障害程度等級表の解説(身体障害者認定基準)について」の一部改正等について」 [平成30.4.27 障発第0427第2号]